



女子美術大学
洋画専攻

洋画



「好き」がふくらむ4年間



hico han

「好き」を探そう。
「好き」を伸ばそう。

「好きなこと」と「好きな人」。
人が本気になるのは、この2つだけだと思う。

今は自信がなくても大丈夫。

「好きだ」という強い気持ちこそが、
ものづくりにいちばん必要な才能だから。



洋画専攻

ひたすら絵を描くことが好きな人、コンセプトから考えることが好きな人、
美術は好きけどなにをやりたいか決めきれていない人……

それぞれの学生が自分のペースで自らの可能性を広げることができる洋画専攻。

油彩画、版画を中心に、映像、インスタレーションなど、さまざまな表現に触れていきます。

洋画専攻カリキュラム

1年次の必修授業では、自分らしい表現をするために必要な基礎力を養います。また、7つの選択授業の中から、自分に合った表現とその可能性を探ります。2年次からは「絵画コース」か「版画コース」のどちらかを選択。3年次からは、さらに専門性を高め、アイデアを伝えるための技法や考え方を学び、卒業制作に向けて研究者、クリエイターとして必要な能力を磨いていきます。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
基礎 必修 絵画基礎 油彩 絵画基礎 デッサン キャンバス制作 写真実習 進級制作 選択 人体 動物 / 植物 静物 リトグラフ / 銅版画 版と写真 古典技法 (モザイク) デザイン選択実技 学外授業 スケッチ旅行	絵画コース 必修 人体 - 油彩 風景 - ドローイング 動物 - ドローイング 進級制作 選択 古典技法 (テンペラ) 立体 アニメーション マンガ インスタレーション 学外授業 スケッチ旅行	版画コース 必修 銅版画 リトグラフ 木版画 シルクスクリーン デジタルプリント 版画史 グッズ制作 (ぼち袋など) 紙漉き 学外授業 スケッチ旅行	卒業制作 五美術大学展 卒業制作展 学外授業 取材旅行 古美術研究旅行 卒業制作 全国大学版画展 五美術大学展 卒業制作展

アーティストトーク (全学年共通の授業)

カリキュラムの詳細の一例



繪畫基礎 油彩（風景）

入学して最初に受ける授業。女子美の校内を自由に歩いて回り、気に入った風景を描くことで、大学生活にもスムーズに馴染んでいきます。下絵の描き方や油絵の具の使い方など、絵画の基本を学びます。



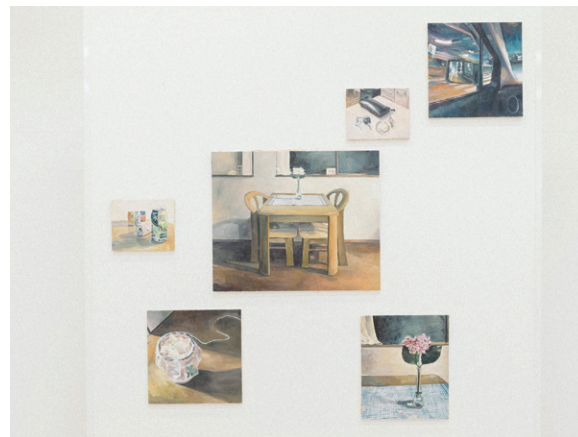
動物 - ドローイング

イヌ、ヤギ、ミニブタなどを、実際に触ったりじっくり取材しながらドローイングをします。「想像で描くのと、向き合って描くのはまったく違う」ということを実感できる、洋画ならではの授業です。



古典技法（モザイク）

大理石を集積・接着させるモザイク技法。1つの石が、たくさん集まることで形や模様になるのを体感できます。また、絵の具以外で表現することで、あらためて描くこと、つくることの意味を見つめ直します。



マンガ

吹き出しやコマ割りなど、マンガの要素や仕組みを素材にした授業です。
絵の中に言葉を取り入れたり、キャンバスを「コマ」に見立ててイン
スタレーションにしたり……マンガの表現を自分の作品に取り込みます。



立体

素材には、軽くてカッターで切りやすい断熱材（硬めの発泡スチロール）を使用。最後に麻布を貼って彩色します。この授業をきっかけに、立体表現のアーティストを目指す学生もいます。



アニメーション

「絵が動く」をテーマに、絵をコマ撮り（止まっている物体を少しずつ動かして撮影）してアニメーションをつくります。ソフトの使い方はもちろん、自分の絵が時間軸をもち、物語となる楽しさを実感できます。



銅版画

版面にさまざまな描画方法を使って凹みをつくり、その凹みにインクを詰め、専用のプレス機で刷りとります。繊細な線の表情や、美しく深い黒の階調が魅力的な技法です。



リトグラフ

「版画＝彫る」イメージがありますが、リトグラフは平らなアルミ版の上に、油性のクレヨンなどを使って直接絵を描きます。紙に絵を描くのと近いイメージで取り組める版画です。



絵画コース

油絵はもちろん、インスタレーションや映像など、さまざまな表現と触れ合い、感性を磨く絵画コース。

やりたいことが決まっている学生は、その表現をさらに深め、

まだ決まっていない学生は、自分に合う表現を探ることが可能です。

3年次からはテーマと表現方法を決めて、卒業制作に向けて独自の作風を追求していきます。

※洋画専攻では2年次から絵画コースと版画コースに分かれます。



絵画コース2年
松本 咲音さん
1998年 静岡出身
藤枝順心高等学校卒業

広く学ぶことで見つかる「自分に合った表現」

洋画専攻の1年の授業では、油絵やデッサンの基本はもちろん、選択授業がたくさんあるので自分で選んで幅広く学べます。特に立体作品をつくる彫塑（ちょうそ）の授業や、学科では美術解剖学の授業が楽しかったです。1つのことに縛られず、まずは視野を広げることができたと思います。

私は事前に細かく設計して描くより「今はこんな気持ちだからこんな絵を描きたい」という感情を動機に絵を描くので、その衝動を直接的に表現できる油絵が自分に合っていると思い、2年から絵画コースを選んでます。

基礎力がグンと上がるドローイングセンター

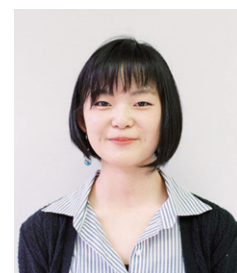
入学当初から、自分の描きたいことを表現するには「デッサン力が足りない」と感じていました。授業の課題だけをこなしていても、スキルアップに時間がかかってしまうので、放課後は女子美内にあるドローイングセンター（写真左）に通っています。だれでも利用できて、先生にアドバイスをもらえて、最終バスの時間まで開いていて……まさに私が望んでいた場所でした。月に5回ほど動物やモデルさんをデッサンできる機会があります。デッサンだけでなく、自分の作品をつくりにくる学生も多く、静かな環境でそれぞれが自分の制作に集中できます。ときには先生がドローイングをしていることもあるので、先生の作品づくりを間近で見られることもあります。

昨日はドローイングセンターでデッサンの練習、今日は図書館で読書、明日はまたドローイングセンター、明後日は食堂で英語の勉強、たまにのんびり……そんな感じで女子美の施設を最大限に活用する充実した毎日です。



「小屋」 1年次 静岡
116.7×116.7cm 油絵

ドローイングセンターでの制作



絵画コース2年
林 真歩さん
1998年 東京出身
東京都立東大和南高等学校卒業

「油絵をやる」と決めていたけど

入学前から「油絵をやる」と決めていたのですが、1年の洋画専攻以外の授業で油絵以外のさまざまなジャンルを経験できたのがとてもよい刺激となりました。たとえば粘土で人の顔を制作した授業は、普段意識していなかった顔の立体感を平面とは違う視点でとらえる新鮮さがありました。これから油絵を描いていく上で、表現の幅が広がったと感じています。また、1年の前半にある「キャンパスづくり」の授業では、いつも当たり前のように使っているものが「こうやってできているんだ」という発見がありました。

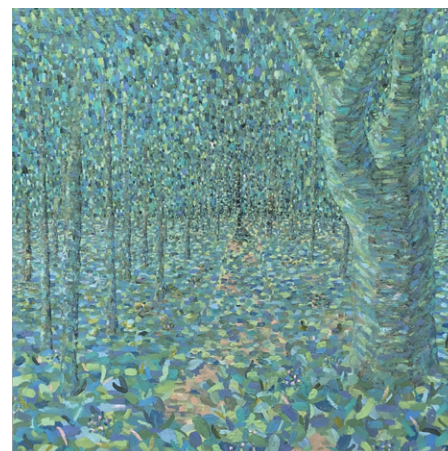
先生の一言が、自信を取り戻すきっかけに

1年の進級制作のとき（写真上）、今までの描き方を「変えてみよう」といろいろ試した結果、行きつまってしまいました。そんなとき、先生は「『変えよう』と思って変える必要はない。描いていく中で新しい描き方が見つかったり、変わるときは自然に変わっていくものだから、あせらないで大丈夫」と話してくださいました。先生はいつも私の描き方を尊重してアドバイスをくださるので、自信を持って作品づくりに取り組みます。

現在は「見えないけど実はある」をテーマに作品をつくっています。赤い点をよく見たら、海面に人影が映る絵だったり（写真上）、緑の点の実が林だったり（写真下）。このテーマをどう描き進めたらさらに面白くなるかを、これから追求できたらと思っています。



「海」 1年次 進級制作 145.5×145.5cm 油絵



「ひとつの森」 1年次 女子美祭で展示
130.3×130.3cm 油絵



技法や考え方を幅広く学ぶ2年生



3年生からは作品づくりと向き合う時間



絵画コース3年
村野 万奈さん
1997年 東京出身
星美学園高等学校卒業



『Where are you going?』 2年次 インスタレーション 205 × 325cm ミクストメディア

アニメーションの表現を学ぶ授業も

日本画、工芸、彫刻……入学前はどれを専攻にしようか、なかなか決められませんでした。でも、洋画専攻だという経験してから専門を選べると知り、洋画専攻に決め、2年から絵画コースを選びました。

絵画コースの2年では、アニメーションの授業が面白かったです。動画編集のやり方を教わり、私は「孤食化」をテーマに約30秒の動画を制作しました。ほかにもインスタレーションの授業（写真）を通して、自分を表現するのに適した方法や好きな画材が見えてきました。これも2年でいろんなジャンルの技法や考え方を学べたからだと思います。

勉強嫌いだったのに、授業が楽しい！

女子美に入って勉強する楽しさがわかるようになりました。自分で「勉強したい」と思った授業を選んで受けているので、中学や高校のときは全然モチベーションが違います。授業の内容はもちろん、少し脱線したときの先生の話もすごく面白いです。

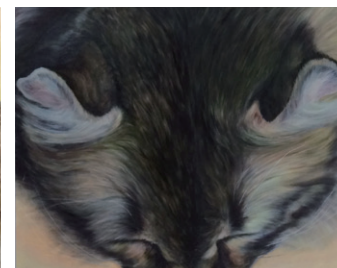
授業以外では、2年のときにイギリスのラフバラ大学での海外芸術研修プロジェクトに参加しました。ラフバラ大学で展覧会を開き、現地の学生と交流した1ヶ月。向こうの美大生は美術と運動を両立していて、とてもアクティブだったので、「自分も体力をつけないと」と刺激を受けました。



絵画コース4年
石原 有紗さん
1997年 東京出身
女子美術大学付属高等学校卒業



『匂い』 2年次 進級制作 左・中央：80.3 × 100cm 右：145.5 × 89.4cm 油絵



女子美祭に展示した「猫の絵」とお手紙

2年の女子美祭で猫の絵を展示したとき、絵を見た方から「猫への愛がすごく伝わってきました」というお手紙をいただきました。それまで「本当に猫でいいのか」と悩むこともあったのですが、それがきっかけで「私が人の心を動かすことができるのは『猫の絵』だ」と決心できました。

その後、2年の進級制作（写真）では、猫が匂いを発するところ（フェロモンを分泌するところ）を調べ、その匂いがいちばん伝わる構図を考えて3枚同時進行で描きました。家で猫を飼っているので、世話をすることが資料収集やテーマを探ることもつながっています。

「猫を通して見えてくる問題」を作品に

3年になると各自のテーマによる制作が中心になるので、自分の作品を突き詰めていく時間がグッと増えます。私はこれまで自分の感情を猫の絵で表現してきましたが、最近では猫を通して見えてくる問題を取り上げ、人の心に訴えるような作品づくりに挑戦しています。

絵画コースは私のように油絵を描く学生が多いイメージがあるかもしれませんが、映像や立体をつくる学生もたくさんいます。油絵にとらわれず、「自由にのびのびと自分の作品をつくりたい」という人にぴったりなコースだと思います。



大学院博士前期課程1年
角川 真穂子さん
1993年 愛知出身
愛知県立旭丘高等学校普通科卒業

女子美でフットワークが軽くなった

高校生のときは東京藝術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学を目指していました。ただ、「受験のための絵」を描くことが苦しくなり、美術から離れて地元の本屋でアルバイトをするフリーターだったこともあります。その時期に改めて自由に絵を描くことの楽しさを感じるようになり、進路や将来に迷っていたところ、親の勧めもあって女子美を受験しました。入学前は外出を面倒くさがる面もあったのですが、友人や先生方のフットワークがとても軽く、それに触発されるように美術館に足を運んだり、アートプロジェクトにも積極的に参加するようになりました。また、女子美の海外プログラムで2年の夏にイギリス、3年の夏に中国、個人的にもインドに行き、さまざまな人と交流し、異文化を目で見て体感することで視野が広がりました。

制作と研究に集中するため大学院へ

4年の卒業制作は、全部で7点の作品で構成しました。そのうちの1点である『家族の風景』（写真下）は、夕方に部屋の中で見た実際の風景をベースに、4年の7月くらいから取り組んだ絵です。

大学院では、4年間取り組んできた「生と死」というテーマの研究を深めると同時に、より自分の表現を追求し、作品を展示する機会を増やしていきたいです。



『家族の風景』 4年次 卒業制作の一部 162×194cm 色鉛筆

大学院でアーティストを目指す



大学院博士前期課程2年
伊藤 夏実さん
1993年 愛知出身
高等学校卒業程度認定試験



『集合』 大学院1年次 藤沢市公募のアーティスト・イン・レジデンス
「Artist in FAS 2017」で制作・発表 サイズ可変 木・鉄・キャンバス

作品づくりに没頭できる恵まれた環境

女子美の学生は、自分を含めて自由でマイペース。似ている仲間と共通のテーマで話せるので、入学前より会話の量が増えました。また、話の中で「自分がどういう性格か」、「どんな作品をつくりたいか」など、自分の内面について深く考えるようになりました。

先生方も話やすく、「こういう作家がいるよ」、「こういう展示をやっているよ」など、画像といっしょに具体的な情報を教えてくださいます。それが自分の抽象的な考えを言語化するきっかけとなることも多いです。画材の使い方といった初歩的なことから、今まで感覚的に扱っていた絵の具の色の組み合わせ方といった理論的なことまで、幅広く面倒を見てくださいます。

また、女子美は図書館の本がすごく充実しています。本屋さんにも置いてない古い画集や、展覧会の図録がたくさんあるので、レポートの資料を探しに行ったり、制作の気分転換で3時間ぐらいいびり本を見つけていることもあります。

セルフプロデュース能力を磨きたい

高校3年のときから、「大学院に行って、将来はアーティストになりたい」と考えていました。大学院は制作に集中する人たちに囲まれた環境で、学部よりさらに自分の学びたいことや作品づくりに時間をとることができます。学外での展示活動や公募展への応募も増やせるので、スケジュール管理やプレゼンテーションなど、セルフプロデュース能力をもっと磨きたいと感じています。



版画コース

「刷る」という間接的な表現の魅力や、1つ1つの工程を積み重ねる面白さがある版画コース。2年次は版画の基本的な4版種、銅版画・リトグラフ・木版画・シルクスクリーンを学びます。3年次からは専門の版種を選び、その技術を磨きます。

印刷・製本・デジタルプリント・グッズづくりなどに関わる授業も多いのが特徴です。

※洋画専攻では2年次から絵画コースと版画コースに分かれます。

4 版種から「自分の版種」を探る2年生



版画コース3年
太田 優紀さん
1997年 香川出身
高松市立高松第一高等学校卒業

版画コースの先輩の作品に惹かれて

中学生からずっと油絵を描いていましたが、選択授業で油絵も描けるので、心機一転、版画コースを選びました。1年の後半にあるコース選択の説明会で、版画コースの先輩の作品を見る機会があり、カラフルな色使いや女の子っぽい雰囲気がとても魅力的だったからです。

2年の版画コースの授業では、4版種（銅版画・リトグラフ・木版画・シルクスクリーン）を学び、自分に合う版種を探ることができます。テーマは自由であることが多いのですが、事前に先輩の作品を見せてもらうことができるので、どんな風に仕上がるかイメージしやすいです。

判断基準は「面白いかどうか」

受験の影響からか、1年までは「うまくつくりたい」という思いが強かったと思います。でも、版画コースの先生の判断基準は「上手いか下手か」ではなく、「面白いかどうか」。「そのやり方がいいね」、「そのアイデア面白いね」と前向きな意見をいただけることがうれしいです。

版画は描写力だけでなく、刷った風合いなども大きく影響するので、その中で自分の個性を探る楽しさがあります。2年のリトグラフの授業では、Instagramを意識して余白のある作品をつくりました（写真下）。「美しく見せるのは大切だけど偽るのはよくない」……そんな女の子の葛藤を表現しています。1年の進級制作では、自分の欲をストレートに表した油絵を描きましたが（写真上）、今はアイデアも表現方法もいろいろ試しながら作品づくりを楽しんでいます。



『欲』 1年次 進級制作 130×162cm 油絵



『Approval Desire』 2年次 版画Ⅰ
54.2×39.2cm リトグラフ



『hide』 3年次 版画Ⅱ 65.2×65.2cm 木版画

4年生は仲間のいる工房で卒業制作



大学院博士前期課程1年
加藤 みゆきさん
1995年 静岡出身
静岡雙葉高等学校卒業

3年からは先輩・先生とより近い関係に

3年になると学科の授業も減り、版画工房にいる時間が長くなります。ときには1日中こもって制作をすることも。困ったり悩んだりしたときは工房にいる友人や先輩に相談しています。絵画コースより人数も少ないので、工房にいる仲間と切磋琢磨しながら助け合って作品づくりを進められます。

先生との距離もすごく近くて、ちょっとしたことで気軽に相談できます。コンクールに作品を出そうか迷っているとき、自信を無くしているとき、悩んでいるとき……どんなときも、先生の方から積極的に声をかけてくださいます。制作面でもメンタル面でも、とても頼もしい存在です。

気がつけば版画のことを考えている

2年の最後に版種（銅版画・リトグラフ・木版画・シルクスクリーン）を選ぶ時期があり、私はリトグラフを選びました。版画の中でもリトグラフの色と色が重なったときの感じが、個人的にとっても気に入っているからです。

休日に水族館で泳ぐ魚を見て「魚を描こう」と思い、後日自分で購入した魚を参考に作品をつくったり（写真右下）……気がつけば版画のことを考えています。大学院ではさらに技術を磨き、個展を開けるようにになりたいです。



（左）『曖昧』 4年次 「全国大学版画展」出品 サイズ可変 リトグラフ
（右）『私を思っ』 4年次 卒業制作 89×69cm リトグラフ



大学院は「大学5年生」の気分で



大学院博士前期課程修了
太田 絵理さん
1994年 栃木出身
作新学院高等学校卒業

女子美だからできた私の作品スタイル

もともと女の子特有の人間関係が少し苦手だったので、入学前は「女子美もきっとそんな雰囲気なんだろう」と不安でした。でも、実際は他人の目を気にせず自分の好きなことをやれて、のびのびと制作に打ち込める環境です。私は「女性であるからこそ抱く感情」をコンセプトに作品を制作していますが、このコンセプトは「女性だけの環境で美術を学ぶ」という女子美だからこそ生まれたのかもしれません。

「作家」として必要な能力を磨く

版画コースは、3年から大学院2年まで同じ工房を使っているのですが、ほかの学年からの刺激を受けながら作品づくりに打ち込みます。また、指導してくださる先生が大学のころと変わらないので、大学院に入っても「大学5年生」の気持ちで学ぶことができます。

大学時代は自分の制作にひたすら向き合う感じでしたが、大学院ではもっと視野を広く持ち、作品を通して「なにを伝えたいか」を深く考えたり、美術と社会の関係を考えたり……ただ制作をするのではなく「作家」として必要な能力を磨くところが、大学との大きな違いだと思います。

現在は仕事をしながら制作をつづけています。いろんな場所で作品を展示して、どういう見せ方があるのか、もっと模索してみたいです。今は作品の中で「理想の女性像」を追求していますが、仕事などの社会経験を通していろんな人と出会えば、思うことや伝えたいことが変わっていくはず。そうすれば作品の方向性もさらに変わっていくと思います。

卒業生の紹介と メッセージ

洋画の卒業生は就職、もっと研究に打ち込むために大学院への進学、
仕事をしながら制作活動を継続するなどさまざまな進路に進みます。
そんな卒業生たちから受験生の皆さんにメッセージです。



彦坂 有紀さん 2007年 版画コース卒業

2010年にもりといずみと共に彦坂木版工房として活動を開始。木版の素晴らしいさを伝えるため、展示会や木版のワークショップを行う。著書に『パン どうぞ』（講談社）や『おもち』（福音館書店）などがある。また、食品のパッケージや広告、雑貨のイラストなどで幅広く活動中。



絵本『パン どうぞ』（講談社）



『晴れと水 手摘みレモン』（麒麟ビバレッジ）

女子美に入って一番良かった事、それは「木版」に出会えた事です。授業では、最初に基本的な事を教わりましたが、あとは特に何も言われず、自由にのびのびと制作する事が出来ました。おかげで木版の魅力を知る事ができ、木版を仕事にしたい、と思えるまでになりました。

今は、学生の時に知った「木版の魅力」を一人でも多くの方に伝えられるように、展示会や、ワークショップを行い、木版に触れてもらう機会を作っています。また、木版で広告や商品のパッケージのイラストを描く事で、木版を身近に感じてもらえるように、日々活動しています。

美大は、自分の「作りたい」という思いに素直に向き合える場だと思います。どんどん作って、自分が一番楽しいと思える表現方法や描く対象を在学中に見つけてください。また、作品を多くの方に見てもらえるよう、大学の外へ発表の場を設けてください。そこでもらった意見を作品に反映させて、社会の中で活躍できる作品を作ってください。

大学生活はあっという間に終わってしまいます。ですので、卒業してから悩まなくていいように、「何を作り、どのように社会と関わるか」を考えて、大学生活を送ってください。

進路
決定率
98.6%※

※「進路決定者（就職＋進学＋アルバイト）」
÷（「卒業生」・「未報告」） 2017年度



峰 春香さん 2017年 絵画コース卒業

株式会社カブコンに入社。現在は3DCGで背景モデリング業務をメインに、コンシューマーゲーム開発に携わっている。



『犠牲』 photoshop

女子美を卒業後、背景デザイナーとしてゲーム会社に入社し、現在ゲーム上のステージやプロップスをメインに制作しています。大学では4年間油絵を中心に創作活動を行っていたため仕事でのメインツールである3Dソフトを使いこなすことができるか入社当初は不安でした。しかしモデリングや絵作りをする際、在学中に培ってきたデッサン力や創造力が日々の業務に生きていることを実感しています。洋画専攻と聞くと絵を描くイメージを持つ人が多いと思いますが、女子美の洋画はとても幅広く自由に創作活動ができるため、現在具体的に目標が決まっていなくても多くの可能性を学ぶことができると思います。



朝倉 優佳さん 2011年 絵画コース卒業

2012-13年ドイツ、ニュルンベルクにて活動。2014年大学院修士課程修了。現在博士後期課程在籍。2015年よりファッションブランド、ヨウジヤマモトとのコラボレーションを展開。展示多数。



『画と機 山本耀司・朝倉優佳』展（東京オペラシティアートギャラリー、2016-2017）

もしかしら作品をつくっていくのに、作家になるのに、大学という場が必ずしも必要ではないのかもしれません。しかし、もともと互いの顔も知らなかった多くの人がと出会い、共に作り、学び、語り合うという経験は、大学生活という時間のなかでしかできないものだと思います。そしてその時間のなかで互いに刺激を受けあった友人とその経験は、きっとどういった職業、環境においてもかけがえのない存在となるはずです。人びととの出会いのなかで自身をつくっていくこと。それを私自身、日々制作をおこなうなかで感じています。



桐村 海丸さん 2009年 絵画コース卒業

女子美術大学洋画専攻卒業。卒業ののち自由に生きる。第59回ちばてつや賞大賞受賞。現在モーニングとFRaUの共同webサイト「ベビモフ」にて赤ちゃん天使漫画『ピカエル』を連載中のほか、少年画報社「お江戸ねこぼんち」にて「のら赤」不定期連載中。



『とんがらし』（講談社）



『ピカエル①巻』（講談社） © さらみ / 講談社

こんにちは、桐村海丸です。今はさらみという名前も使っています。漫画を描く仕事とホロスコープの研究の仕事をしています。私は中学から大学まで女子美に通っていました。絵はもちろん、友達と学校が大好きな学生でした。勉強や課題はとても嫌いでした。やりたくないことは意地でもやりませんでした（笑）。ですが、やりたいことは全てやりました。誰かにやれと言われたことではなく、自分がやりたいと思ったことを行動に移して、実現してやり遂げる経験が何よりも人生の糧になると思います。



田中 紗樹さん 2006年 絵画コース卒業

アメリカに生まれ香港に住んだ経験からあらゆる土地に興味を持ち各地で滞在制作を行う。国内外での個展の他、パッケージやロゴ、壁画制作、ライブペイントなど様々な仕事に携わっている。



『ドーム壁画』（野原のミュージアム、岐阜）



『サンタムールワイン』ラベル (mottox 企画)

私は個展での発表や絵のお仕事で制作を続ける他、旅と掛け合わせた「stay & work」という活動で国内外に絵を残して来ました。

インドではスパイスを使った絵、ロンドンでは自転車にペイント、アメリカでは泥と藁で犬小屋を制作…。

風土や環境、人との交流によって自由に変化する制作スタイルです。学生の頃からあらゆる素材に興味があり他学科へ遊びに行っては刺激を受け、学内に様々な分野のプロが居る面白みを感じました。

皆さんには興味あるテーマを掘り下げ、分野を超えた表現方法を探し続けて欲しいです。



大小島 真木さん 2011年 大学院修士課程修了

描くことを通じて鳥や森、菌、鉱物など他者の視野を自身に内在化し物語ることを追求。インド、ポーランド、中国、メキシコなどで滞在制作。2014年VOCA奨励賞。太田市、府中市の美術館、青森県立美術館などで展示。

私はこれまで国内の美術館、海洋調査船、神社、プラネタリウムなどの他、海外でも作品を作っています。制作することを通じて、さまざまな人と繋がってきました。学生時代におおきに学び、遊び、自分なりの挑戦によって培われた経験と技術は糧となります。それを応用させて社会の中で生き抜いていく。高校生の皆さんにも大学を「学び方を学ぶ場」として、一生の「良き学び」のための哲学と技を大学生生活を通して蓄えて欲しいと思います。皆さんはたくさんの可能性を秘めた種です。



『光が語る天球の地図 / Atlas of celestial globe narrated by light』
Program in Planetarium of Tamarokuto Science Center.
Year 2017, ©Maki Ohkojima

卒業後の主な進路

【文具・玩具・ジュエリー・服飾雑貨会社】 サンスター文具 / サンエックス / ナカバヤシ / タイトー / Francfranc / バルコス / 世界堂 / ビームス

【ゲーム会社】 任天堂 / カブコン / コナミグループ / ハル研究所 / ドリコム / ユークス / ボルテージ / コロプラ / Cygames / 1 - U P スタジオ

【インテリア・空間会社】 DNP 住空間マテリアル / 大塚家具 / 東宝映画美術 / 四季 / 高津装飾美術 / タマホーム / 東宝映像美術 / 商業芸術

【WEB・映像・TV・アニメ会社】 ヤフー / トランスコスモス / あとらす二十ー / A-1 ピクチャーズ / クリーク・アンド・リバー社 / びえろ

【学校教育（教員）・その他】 東京都教育委員会 / 神奈川県教育委員会 / 千葉県教育委員会 / 森美術館 / 東日本旅客鉄道 / 大学院進学



専任教員

絵画コース

大森 悟、岸 鹿津代、広瀬 晴美、福士 朋子、向井 三郎、山内 隆

版画コース

阿部 大介、清水 美三子

客員教授

イケムラ レイコ、水沢 勉

特別招聘教授

清水 哲郎、白井 美穂、曾谷 朝絵

講師

絵画コース

池内 晶子、上葛 明広、大小島 真木、岡本 将徳、小野 さおり、角谷 沙奈美、菅野 静香、熊谷 直人、
河面 法子、重田 佑介、篠原 愛、清水 香帆、菅原 智子、鈴木 恵美子、鈴木 伸子、関口雅文、中村 萌、萩原 綾乃、
尾藤 衡己、堀込 幸枝、リンダ・デニス

版画コース

今井 圭介、大坂 秩加、河村 有佳、斉藤 里香、作田 富幸、滝沢 恭司、東樋口 徹、馬場 知子、山口 茉莉

助手

絵画コース

坂内 直美、佐賀 永康、中山 開、前川 加奈、丸森 初音

版画コース

田中 唯子、中村 花絵



女子美術大学

女子美術大学 芸術学部 美術学科 洋画専攻

〒252-8538

神奈川県相模原市南区麻溝台 1900

www.mixed-color.com



instagram : joshibiyoga



twitter : @yoga_joshi



Facebook : @joshibiyoga



デザイン

写真

ライター

AD・編集・イラスト

公平 恵美

千葉 こずえ

森山 晋平

彦坂木版工房